



## 巻頭言

大阪IIゾンタクラブ会長 丸山 優子



新芽がまぶしく感じる頃となり、早いもので、会長の指名を受けてもう1年が過ぎてしまいました。反省するばかりで、クラブの皆様にご助けいただきながら奉仕活動が出来ました。私は大阪II独自の奉仕活動が出来れば素晴らしいと考え、皆様の感性豊かな個性を大切に、誰もが平等に意見が言える開かれたクラブ運営に努めて参りました。大阪IIは2003年に10周年を迎えることになり、私達は力を合わせ現在取り組んでおります。10年前に、初めてメンバーの人達とお逢いして、私達で行える奉仕について色々話し合いながら活動に励ん

で参りました。この間に思い悩む事も沢山ありましたが、クラブの皆様と乗り切ってきました。私達は、この12月1日(日曜日)に新しく修復された、大阪のシンボルである中央公会堂で10周年記念事業を行うことになりました。これから、皆で力を合わせ一丸となって頑張りたいと思いますので、よろしくご指導ください。また、私は自然体で、スリムなクラブ運営をしたいと思います。残る1年努力いたしますので御協力をお願いします。



国際ゾンタ26地区エリア4の会長会議に出席して

丸山 優子



今回平成14年5月10日に和歌山の白浜コガノイベイホテルにて行われた会長会議に出席致しました。三宅エリアディレクターは昨年の会議の反省として、今年は明日からのビジネスセッションが「開かれた会議」にするための準備のための会議にしたいと挨拶がありました。

まず、議事のひとつとして、地区アワード受賞クラブである北九州ゾンタクラブの推薦理由として、北九州博覧祭に市民パピリオンの出展への参加、並びに継続事業の功績を挙げ、ガバナーに推薦し見事受賞されたことの報告がありました。北九州ゾンシャンのパワーに感激し、私達のクラブも出来る範囲で頑張りたいと思いました。

報告事項として、プログラムの承認、第3回エリアミーティング議事録の承認、2001-2002年度エリアディレクターの活動報告、2001-2002年度エリア4中間収支計算報告があり、全て承認されました。

協議として、「26地区手続き規則」「26地区立替金払い戻しに関するガイドライン」に付いてエリア1ADの関紀美子様より説明があり、ついで質疑応答がありました。私は前日の例会で協議され質問があった事項について、疑問点を質問いたしました。

任務、責任の項目7について、エリア1,2,3,4に副エリアディレクターを選出する事が出来る。副エリアディレクターは地区大会または国際大会直前のエリアミーティングでエリア内のクラブによって選挙されると改められました。

国際大会の経費についての項目13について、登録料、晩餐会、その他大会での食事代、交通費、及びホテル代は削除さ

れました。この項目は私達の誤解があるようで、予算の範囲内と言う縛りがあり実際は非常なご苦勞の割には、ほとんど認められていないに等しいことが解りました。

エリア4運営について、三宅ADよりエリア4運営の必要経費に関するアンケートの結果が報告されました。今後、実費を出しトレーニングセミナーで検討しエリア独自で活動して行きたいと締めくくられました。最後に各クラブの会長の意見を聞かれましたので、私の個人的意見として、ここ2・3年の間は不可解な事が多く、ゾンシャンであることが恥ずかしい思いであったが、今後、我々のクラブは奉仕活動の団体であることのみを考え活動し、これからも頑張ってくださいとお話しました。



ビジネスセッション

久岡 眞佐代



(2002年5月11日 AM10:30~12:20)

春の薫風が漂う中、2002年5月11日(土)午前10時30分から和歌山県白浜市のコガノイベイホテルでビジネスセッションが開催され、200名余りのゾンシャンが出席しました。大阪Ⅱから会員6名が現地で集合し、それぞれ分担・協力し合っ

て各会議に出席しました。昨年のEMの開催地であったときの苦勞が思い出され、今年も嵐が吹き荒れるのではと危惧していましたが、協議事項「地区マニュアル26地区手続き規則」、「26地区立替金払い戻しに関するガイドライン」は、基本的に合意に達することができ、エリア4の運営についても会員のアンケート結果を参考にしてエリア4独自の運営方法を検討することになり、会議は成功裡に終了しました。

フロアーから「予算同様、地区の決算についても地区大会などで承認を得るべきではないか」という意見が出ましたが、「国際ゾンタ・パイロースでは、公認会計士など第三者が会計帳簿を監査することにより十分に適正が担保されているので

理事会や国際大会での承認はなく、26地区のみ独自の会計処理を行うことは難しい」とのことでした。

しかし、会員にとって適正な会計処理がなされているかどうかとりわけ重大な関心事です。将来は決算についても地区大会での承認を得るような方向で検討する余地があると思います。それでこそ真の「開かれたゾンタ」になると思います。

大阪Ⅱ設立からまもなく10年、今回のような穏やかな雰囲気の中で意見交換がなされたEMは初めてです。今泉ガバナーから「近年まれにみる素晴らしい会であった」と講評があり、三宅ADからも「今回26地区から国際本部に向けて改革のうねりを発信したことは誇りに思います」という発言があり、出席者から盛大な拍手が送られました。

天気も会議も爽やかでゾンタが信頼と誠実という本来の姿に戻る兆しを感じた1日でした。役員の方々、開催地和歌山ゾンタクラブの会員の方々のご尽力に感謝申し上げます。

ワークショップの報告

川村 くに



5月11日、ビジネスセッションに引き続き午後からワークショップが開催された。

第1部「ユネスコと日本」

講師 文部科学省国際総括、日本ユネスコ国内委員会総務 白川哲久氏

ユネスコ (United Nations Educational Scientific and Cultural Organization) とは諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関である。本部はパリのセーヌ川左岸にある。1951年7月に日本が加盟した。それ以前に草の根運動があり、仙台ユネスコが一番初めに開かれた。次々と運動が広がり、アジアから世界へ広がった。日本は昨年50周年を迎えた。

ユネスコの理念は「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」である。

ユネスコ事業としては

教育；Education for all アジア、太平洋地域の6億1200万人

の非識字者への識字教育と初等教育の完全普及に対する支援

科学；国際水文学計画、水循環に関する知識、水資源の開発能力を高める

人文、社会科学；ヒトゲノムに関する研究や文化的、法的、社会的観点から国際的な標準を決める

文化；世界の文化財の保護及び自然遺産の保護、日本においては文化遺産9件、自然遺産2件がある。法隆寺地域の仏教建造物、古都京都の文化財、姫路城、白川郷、五箇山の合掌集落、原爆ドーム、巖島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国、クスクス及び関連遺産群、屋久島、白神山地がある。

さらに無形の文化遺産の継承と発展を図るため、平成10年に人類の口承及び無形遺産の傑作を讃えるための規約が決議された。平成13年5月パリのユネスコ本部において、第1回目の宣誓式典が行われ、我が国の「能楽」を含む19件が人類の口承及び無形遺産の傑作として宣言された。

パネルディスカッション第2部

「伝統文化と女性の地位向上」を拝聴して

徳光 正子



ワークショップ第2部は京都でご活躍されているゾンシャンの方々のパネルディスカッションでパネリストには塗師中村宗哲12代の中村弘子様、彫刻家の濱岡登美子様、生け花専慶流の西阪宣枝様、そしてコーディネーターは一茶の澤井早和乃さまという豪華にして素敵な方々ばかり。花、茶の湯、彫刻のそれぞれの歴史的な背景もご説明下さり、大変興味深く聞かせていただきました。各分野のご造詣の深いお話で、簡単にまとめてしまうにはもったいない限りでございますが、女性の地位向上という立場から3つのポイントで申し上げます。

ひとつは美や芸術、とくに伝統芸術の世界はやはり男性中心なのだという事をあらためて実感しました。2つ目は戦後あたりからようやく西洋文化の影響もあってか自由や個性が見直され、価値観の多様化とともに、女性の活躍の場が与えられてきたのだと言うこと。そして3つ目は美への追求には結局のところ、性差はないという当たり前の事実、いやむしろ感性豊かな女性は優れてるとさえいえます。生理的な体力的なものには男女の区別はあるでしょう。しかしそれは両性それぞれの特徴の区別であって、差別ではありません。お花・お茶・彫刻何れも我々の生活空間の中で心豊かに潤いを与えてくれるもの。日常生活の中に、美や芸術がなくなったら心に感動がなくなってどんなに味気ない人生だろうかと思えます。

古いものをそのまま受け継ぐのは伝承、古きものを大切にしつつ新たな試みを行くことが伝統なのだ聞いたことがあります。それにしても伝統の世界の中で、このように素晴らしい女性達が美しくしなやかにたくましく歴史の1頁をになっておられることを同じゾンシャンとして心から敬意

を払うとともに、大変誇りに思います。



その夜の懇談パーティーは和歌山の勇壮な大太鼓の演奏とおいしい郷土の珍味をいただき、ご夫妻で出席された衆議院議員野田聖子さん（ご主人が和歌山出身）のご挨拶、「夫より先に挨拶をさせてもらったのははじめて・・・」等があつて盛り上がり、楽しくすごしました。つぎのエリアミーティングは松本です。（この項編集部）



私達大阪Ⅱゾンタクラブは、発足して10年を迎えます。この10年のあいだ、毎年講演会やコンサートのイベントをおこない、それにより得た収益を、国際ゾンタを通じて各所に寄付をまいりました。十分ではないものの、それなりの貢献は出来たのではないかと考えています。

しかし一方、お金を寄付するだけではなく、直接お顔の見える相手に喜んでいただけるボランティアのやり方はないものだろうかと常々考えておりました。

昨年5月私達大阪Ⅱゾンタクラブが、エリアミーティングのお世話をさせていただきましたが、その会長会議の夕食会で、柿木会員が余興で「銭太鼓」という、出雲の伝統芸を披露してくれました。それは硬貨の入った2本の竹の棒を、廻したり放り投げたりする、いわば和風バトンといった妙技で、私はすっかり見とれてしまいました。

この明るく賑やかな芸を皆で覚えて、老人施設などで見ていただけたら、またお年寄りも一緒にできたらきっと喜んでもらえるのではないかしらと考え、さっそく柿木さんに相談しました。柿木さんも大乗り気で、すぐ指導の先生をお願いし、メンバーをつのり、賛同を得た9人で意気揚々とスタートすることになりました。それから初舞台までの6ヶ月、汗

と涙の練習をするわけですが、覚えるさきから忘れていくこの年齢、練習が終わったあとの太ももの痛さなどなど・・ほんとうに苦労いたしました。ビデオという文明の利器を利用して、先生の模範演技を、各自家でくりかえし見て動作を覚えましたが、安来節の賑やかな（やかましい？）音楽が流れるたびに家族のひんしゅくをかう始末。棒を落すたびに大きな音がし、畳やフローリングに傷がつくなど、家庭での被害はかなりありましたが、それでもその何倍もの楽しみがありました。みんなで力を合わせる喜び、練習の終わったあとの爽快さ、初舞台の緊張など、まるで学生時代の運動部のクラブ活動をしているような楽しさでした。

私達には夢があります。ゾンタ銭太鼓部隊が各地の施設で銭太鼓パフォーマンスをし、施設の方々と一緒に楽しめるようになること、この手先を使う運動を通じて、お年寄りは若返り、子供は器用になり、もちろん私達の老化予防になることです。

そしてなにより、この運動で施設のみなさんが、明るくなり楽しんでくだされば最高です。まだなかなかその域には達しませんが、私達も楽しみながら練習していくつもりです。

## 銭太鼓初舞台

辻 康子



2001年12月15日、メンバーが忙しいスケジュールをやりくりしながら、半年間練習を続けてきた銭太鼓の初舞台の日です。今は亡き川嶋妙香さんが施設長をしていらした百丈山合掌会の「年忘れ会」に出演させていただくことになったのです。銭太鼓チーム（8人）は奉仕委員会を中心に有志が集まり、この半年間、月2回先生に教えていただき、家に帰ってはビデオをみながらの練習を続けてきました。銭太鼓は安来節に合わせて打つのですが、西洋音楽と違い安来節のテンポとリズムになかなか乗れず、間をあわせるのに苦労しました。初めはバトンのような銭太鼓をくるくる回すだけでも大変で、果たして一曲覚えられようかと気が遠くなりそうでしたが「ウルトラC級」と思える手をクロスさせながら太鼓を回転させる技も出来るようになりました。わいわいみんな楽しく練習していましたが、初舞台の日が決まってからは、練習に力が入り、皆の真剣なこと！

”初舞台”私達には緊張と興奮が入り交じっていました。黒いゾンタのTシャツに黒のスパッツ、その上に赤い法被、銭太鼓と書いた鉢巻きという威勢のいい出で立ちで、銭太鼓を打つのです。施設のある寝屋川に向かう京阪電車の中では、ズボン下にスパッツをはいてきて、それをちらつかせながら、「下にはいてきたのよ”” わたしも”とまるで小学生の遠足のようにしゃいでいました。施設に着くと、年忘れ会の会場は、きれいに飾り付けられ、準備がすっかり整っていました。妙香さんの妹さんでいらっしゃる現施設長さんに、紹介していただき、私達が一番最初に出演させていただくことになりました。銭太鼓は出雲に伝わる伝統芸能で、竹で作った筒（太鼓）のなかに硬貨（銭）が入っています。太鼓を打つと、ガチャガチャ銭の賑やかな音がします。もし太鼓を落

としても地元に銭（お金）が落ちますよ、と柿木さんのユーモア交えた上手な説明に会場はすっかり聞き入り、和やかな雰囲気になりました。さあいよいよです。”♪なに〜わ〜なくとも♪（〜安来節のふし〜）”私達は練習の甲斐あって、しっかり音楽を聴き、楽しく太鼓を打つことが出来ました。大成功です！！

そのあと私達を出演させていただいたことへの感謝の気持ちと心一つにして、目標に向かってみんなで力を合わせることに楽しさを得られたことなど、心を込めてなくなった妙香さんのご仏前に報告させていただきました。”よかったね”と妙香さんのなつかしいお声が聴こえるような気がしました。施設で準備して下さったお心のこもった手作りの昼食をごちそうにもなりました。私達の出演の申し出を快く受けて下さった百丈山合掌会の皆さまありがとうございました。とても楽しい心温まる1日でした。





春は歌の翼に乗って・・・と題され恒例のチャリティーイベントのコンサートが2月23日（土）に開催されました。

街なかのほのぼのとした小さなコンサートとして、北浜のアイルモレコタの会場にゾンシャンはじめ、音楽の好きな方たちが集まりました。ソロの河村さんと子会員の歌声は、街を流れる大川の風によって、素晴らしい音色でした。ご存じの通り、河村さんは国内はもちろん海外でも、多くのソロリサイタルや各種コンサートを開催され活躍されています。パバロッティの大ファンで日本のパバロッティ協会会員です。今回は大阪芸術大学の田淵幸三先生のピアノ伴奏とともに、またボランティアの若い声楽家の方々の応援を得て、私達聴衆を楽しませて下さいました。

今年度も私達はコンサートに日本ライトハウスの会員の方々をお招きいたしました。1時間あまりのコンサート、メンデルスゾーン、シューベルトやプッチーニなどの有名な曲に加えて、團伊玖磨のオペラタ鶴よりの“さよなら与ひょう”も歌って下さり感激でした。アンコールの曲の“この道はいつか来た道”は、ライトハウスの会員の女性も飛び入りで舞台上がっての大合唱となり、コンサートは最高潮に達しま

した。コンサートの後はアイルモレコタのお雛様料理を賞味いたし、とてもゆったりとした心地よい時を楽しみました。このチャリティーイベントの収益を含めて、今年度も当クラブより奉仕として日本ライトハウスと大阪アイバンクに各々10万円を寄付いたしました。当日会場に日本ライトハウス常務理事、橋本照夫様と大阪アイバンク事務局長小原清様のご出席を得て、私達の志をお渡しするとともに、各団体より感謝状をいただいたことをあわせてご報告いたします。



春の移動例会

内藤 恵子



今年の春は、梅、木蓮、ほけ、桜、と、例年より10日程早く、咲き続けました。その後も、つつじ、五月、藤、芍薬と、花好きの私は目を休める暇ありません。新梅もう収穫され、梅林をお持ちの患者さんに頂きました。梅酢2本梅酒1本を作り、夏を待つだけです。春の1大イベント、移動例会が、4月6、7日、土日で鳴門のエクシブで開かれました。丸山優子、川村くに、宮本典子、牛田三千子、内藤恵子の5名が参加しました。川村先生が3部屋も予約して下さいだったので、丸山先生のお友達が参加して下さい6名になりました。ツインベッドと和室の部屋で4名は十分に泊まれる所を、ゆったりと2名づつ使いました。4月6日は、あいにくの雨でしたが、帝国ホテルで、川村さん、宮本さんと落ち合って、私の車で出発しました。私は遠出をあまりしないので、朝、高速道路の入口を下見しておきました。何とか迷わず阪神高速に入れ、快適なドライブを楽しみました。両先生は、冷や冷やしておられたかもしれません。神戸を過ぎどんどん行くと、雨にかすんだ瀬戸内海に架かった明石大橋が、現れました。とてもロマンティックな風情が心に滲みしました。瀬戸大橋は走っていて何も見えないですが、明石大橋は、瀬戸内海の周辺の島々が見えて感激しました。鳴門について高速を下りてからもそのままのペースで走っていたら、宮本さんに“高速、終わったのよ”と注意して貰って急いでブレーキを踏みました。楽しくおしゃべりをしながら、海岸沿いの道路を走り、もう少しで通りすぎる所を、何とか気づいて少しのバックで、鳴門エクシブに到着しました。小高い丘の上に石作りの欧州のお城を思わせるホテルでした。中に入ると大きいいたお花が出迎えてくれました。夕食の予約をするとき写真を見てあまり沢山でも食べられないから質のいいのにしましょうと決めました。全員が揃い例会の後夕食になり、次々と大きなお

皿にのったお料理が運ばれてきました。中身は少しずつだったので川村さんがこれで足りる？と心配して下さりましたが最後のデザートまでいくと一杯になりました。夕食後、宮本さんが牛田さんと私の部屋にいられて銭太鼓のおさらいをされました。私は楽しく拝見していました。翌日は朝小雨でしたがすぐ上がり絶好のゴルフ日よりでした。丸山、川村、丸山先生のお友達が1組、私と牛田さんは他のひとと一緒になど心配してましたが、2人でキャディなしだったので、宮本さんもカートに乗って貰って楽しくおしゃべりしながら回りました。帰りに鳴門金時をもとめて車を走らせ、全員おみやげを手に入れ、おいしい夕食にホテルアナガへ行きました。リゾート、プチホテルで海の幸満載のフランス料理を頂きました。パン、サラダ、アワビのステーキどれもおいしくみんなにこにこ顔になり、また来ましようとなりました。来年は、もっと沢山の方が参加して下さい。とても楽しい旅行でした。





講師 関西電力病院 神経科部長 北浦大作先生

このシリーズは、私達女性に身近な疾患についてその道の権威の先生に分かり易くご講演頂いています。第6回の本日は、社会の複雑化や景気の低迷等の諸要因により最近増加の傾向にあるうつ病について、関西電力神経科部長の北浦大作先生にご講演頂きました。北浦先生は、昭和56年京都大学医学部卒業。公立小浜病院、藍野病院に勤務。昭和58年より「小脳脳波の研究」を継続。平成3年より関西電力病院に勤務されています。先生は私の同僚です。大変温厚で円満なご性格で、多くの患者さんの信頼を得ておられます。以下先生のご講演の要旨を記載します。

### 1) 社会変動期に於けるうつ病の増加

うつ病とは、エネルギー喪失状態で、車でいえばガス欠の状態です。うつ病による自殺率は完全失業率に比例しています。また雇用の不安定、能力主義の人事査定、パソコンについていけない等でうつ病の発症が高率になります。いろいろの病態を取り1. 無気力になるもの、2. 腰痛、風邪、胃炎などのように身体症状が前面にでるもの（仮面うつ病 他覚所見と訴えの間にギャップがある）3. 周囲の期待が高い、つまり本人の負担感が高いと休む。例えばあるプロジェクトの責任者や副責任者になると出てこない。（逃避型抑うつ。思い当たる人も多いのではないのでしょうか）4. うつ病（典型 一般に責任感の強い“よい人”がかかり易い）などがあります。

### 2) 女性とうつ病

うつ病の発生率は、男：女=1：1.9で、女性に多く見られます。マタニティーブルー、産褥期うつ病（産後6W以内）、更年期うつ病があります。更年期うつ病は、45～55歳に起こります。肉体的美しさに衰えが見られ、子供の自立など家族の変動、夫婦の会話の減少が見られる時期です。青年期の“頑張れば何とかなる”という心性が失われ、挫折感にさいなまれ“自分の時代は終わった”と感じ、結婚や仕事も失敗だったと自分の今までの人生を否定します。

### 3) うつ病の診断

### ・うつ状態の症状と身体症状

#### 1. 精神症状

ゆううつな気分が続き、説明の出来ない不安感、イライラ感があります。おっくうで普段やっている事が出来ず、自責の念が強く、気分の日内変動があり、朝が悪く、夜になると少し元気になります。自殺願望があり、死んで楽になりたいと思うようになります。うつ病で、毎年3万人以上の方が自殺しており、交通事故死の9千人を遥かに凌駕しています。

#### 2. 身体症状

睡眠障害（中途覚醒、早朝覚醒、現実性に富んだ夢を見る）がほぼ全例にあり、治療には、1) 薬物療法、2) 休息療法、3) 社会復帰療法があります。薬物療法には、抗うつ剤及びホルモン補充療法（更年期うつ病の場合）があります。副作用と効果に個人差のあるのが問題ですが、一般的に薬が奏効しやすい。またうつ病と診断されたら休息が大切です。うつ病になると休息を取るのに罪悪感をもち、又自己決定が出来ないので、「これまでよく頑張ってきたから、ちょっと休息を取りましょう」と休ませてあげます。治療中自殺を絶対しないと約束させ、人生の大問題の決定は延期させ、治療中症状に一進一退ある事を再三告げます。間違っても、「もっとしっかりしなさいとか、頑張りなさい」と言っはいけないのです。そうではなくて、「今迄よく頑張ってきたね」といって話を聞いてあげ、社会復帰へと導いてあげます。今迄の生き方を少し縦断的に見てもらうのが、よいでしょう。

（以上が、北浦先生のご講演の要旨です。）

こうやって見てきますと、うつ病は長い人生の間、誰でも一度は落ちる可能性のある落とし穴の様な、風邪のような疾患であるといえます。自分自身の努力、身内友人の助けでも解決せず病的な状況になってきたら、早く専門医の助けを借りる事が肝要です。幸いうつ病は回復可能で良く効く薬があるという先生のお話に救われる思いがしました。時間を大幅に超過しての先生の熱心なご講演に一同満足して会場を後にしました。

## 近隣クラブ訪問 春の京都を訪れて

徳光 正子



恒例の京都Ⅱゾーンクラブチャリティー園遊会にメンバーの田中淑子さんと参加しました。今年は木屋町四条を下がった建仁寺にて行われ、丁度昼時に到着した私達は先ずはゆっくりとお庭を眺めながら京都のお弁当に舌つづみ。

バザー会場ではくいしんぼうの私達は、お菓子や胡麻豆腐…とどうも食べ物にばかり目がいってしまい大笑い。又障害者の方が製作されたブローチはかわいくて、思わずプレゼントにしたり買ってしまった。乾燥したローリエの葉も手作りとのことで、軽くて便利なおみやげにぴったりでした。田中さんは今流行の古布コーナーでいろいろな柄の組合せを選んで楽しんでおられました。

最後にゆっくりとお抹茶で一服、官久庵理事でいらっしゃる千和加子様からお道具のご説明を賜り、又お手伝いをして

下さっている佐伯先生もよく存じ上げている方だったので、恐縮しつつおいしく頂戴いたしました。

桜の季節は早く終わってしまい残念でしたが、帰りには八坂神社の境内を二人で散策いたしました。藤の花がとても見事に美しく、都会の喧噪のなかで疲れていた私のこころをなごませてくれました。

春の京都の小さな旅、幸せなひとときでした。



タイガース効果

先日、ゴルフウェアを買いに阪神デパートに行った時のことです。たまたまお気に入りのブランドショップがタイガースグッズコーナーのそばで、あれこれ服を選んでいる私の耳にタイガースの応援歌がやたら大きく聴こえてうるさいんです。私についている店員さんが、応援歌が大きくなるさいのでつつい声が大きくなり、喉が痛くて薬を飲んで仕事をしていると嘆くんです。もちろん、笑いながらですが。

今年のタイガースはちがう。どこへいってもタイガースファンは力説するんです。前監督が就任したときも、かなりののはしゃぎようだったように記憶しているのですが、星野タイガースはそれ以上みたいです。確かにシーズンが始まって連勝して、期待も大きくなったのでしょうか。

面白い話では、歯科医院では予約はキャンセルが続々と入り、内科医院では患者が来院しないとか。タイガースの試合の日は風邪も引かなければ、歯痛も我慢が出来るのでしょうか。おとうさんたちは早く帰宅し、ビールを飲みながら野球観戦をする。これが一番。そして阪神巨人戦はとくに！！大事な時間なのです。

“タイガース効果”最近よく耳にするのですが、ある銀行では阪神が優勝すれば利息が7.7倍になるとか、又大阪市内のあちこちの飲食店では、タイガースが勝った日はビールはタダだそうで、新聞やテレビでこんな店、あんな店で趣向を凝らしているらしく、タイガース優勝商法とか、さすが、大阪人。

大阪市内に限らず、私の住む池田で発見、白い髪、白い髭、

白いスーツをきた人形のあるフライドチキンのお店では、飲み物とポテトとチキンのセットが阪神の試合のある日はプライスダウンです。全国、いや世界中にあるはずの店ですが、大阪だけ、いや関西だけでしょうか。阪神の試合の日はみんなでお店を探して歩くのも楽しいかも。お金も節約できて一石二鳥。

大阪府知事、太田房江さんのお話も面白かったですね。太田知事の後援会パーティの席で、大阪の経済低迷のなか、昨年はUSJでほんの少し上がったけれど、まだまだ焼け石に水。ここでセリーグ優勝タイガースとパリーグ優勝は近鉄で日本一を競う、これぞまさしく大阪人の本望であるとは会場は拍手喝采でした。

これは私もぜひ観戦したいですね。

世の中は今、サッカーワールドカップの話題でもちきりで、フリーガン対策やチケット不足など経済情勢には強いお父さん達も、にわかサッカーファンになるためのお勉強でお疲れのはず、家で観る野球でほっと一息つけるのでは、ないのでしょうか。

野球ファンでなくても、今年のタイガースから目が離せない。ドキドキさせてくれそうな楽しい予感がしてきます。もっともっと楽しいこと、嬉しいこと、タイガース効果を期待して、今年はタイガースファンを名乗ろうかと思っている今日この頃です。

奈良ゾンタクラブチャリティーコンサートに参加して



奈良ゾンタクラブの今回のコンサートは「楊興新」ヤンシンシンさんという中国の演奏家による胡弓演奏でした。友人にヤンシンシンさんの追っかけに等しいくらいの熱烈なファンがいて、私も胡弓は好きだし、我がクラブのメンバーは金曜の夜などとても、という超忙しい人ばかりだし、ということで奈良に用事を作って出かけました。大和郡山・秀吉の優しいお兄さんのいた城、のあったところです。

降り立ったのは初めてでした。

その夜、4月5日は美しい春の夜でした。郡山ではさくら祭りのぼんぼりに灯が灯り桜は花吹雪という趣でした。会場の”やまと郡山城ホール”は新しい大きくきれいなホールでこの会場をいっぱいにした奈良ゾンタクラブの方々のご努力、力量はたいしたものとおみうけしました。いつも思うことですけれども。

会場ではなつかしい奈良ゾンタクラブの方々、上田次期エリア4ディレクター、今泉ガバナー、大阪Iゾンタクラブの佐々木静子先生、大阪、京都、和歌山からの沢山のゾンシャ

ンがお見えになっていて、沢山の方にご挨拶でき、とても和やかな雰囲気でした。遅く行ったにもかかわらず、真ん中のとてもいい席に案内していただきました。

ヤンシンシンさんは中国の東北のご出身、大連生まれの私はなにかとても近親感を持ちました。日本に来て15年あまりのベテランで、ユーモアあふれる日本語のお話は、病身の日本人の奥様を抱えてのご苦労も全く感じられませんでした。新曲”春を待つ”はとても優しいしみじみとしたいい曲でした。奈良ゾンタクラブのゾンシャン、有名なマリンバ奏者、松本真理子様が友情出演されて、ご自分の作曲”モンゴルの空へ”やチャルダッシュを聞かせて下さいました。

奈良市長、大和郡山市長もお見えになって挨拶され、又おみやげに配られた手作りのナイロンたわし（石鹸のいらない一環境に優しいいつも作っておられます）にはゾンタの説明が付いていることなど、教えられること多い1日でした。



出戻りの笠置伸子でございます。以後どうぞよろしくおねがいもうしあげます。11年前に大阪Ⅱゾンタクラブにチャーターメンバーとして入会させていただき、その後千里ゾンタが設立されるのと同時に移籍いたしました。今又千里ゾンタクラブの解散により、この6月より、新入会員として、新たな気持ちで、一からいろいろなことを学ぶつもりで参加させていただきたいと思っております。

ゾンタに入会することによって、ボランティアに携わり、この11年間、色々なさせていただきましたが、ボランティアに対する考え方が、随分と変わって参りました。最初の頃は、ただただ、漠然とした気持ちで何がボランティアなのかも理解していませんでした。そして突然、阪神大震災に遭遇してはじめて、ボランティアをされる側の人の気持ちが理解できたように思います。震災の次の日に、阪急西宮北口の近くまで車で行き、それから歩いて駅まで行きました。その間沢山の人が家の下敷きになって、まだ生きていて助けを求めている人、もうすでに亡くなっている人、まるで地獄絵でした。そんな中を歩いている私も、平常心を失い、異常だったと思います。

大阪の梅田に着いたときにはまるで別世界で大勢の人がバーゲンセールに集まり、買い物に没頭しておりました。言葉を失うほどのショックでした。そんな気持ちで東京の実家にたどり着きました。親、兄弟も大変心配してくれて、気を使ってくれました。多分私が素直な気持ちで色々なことを受け入れられない心理状態だったからだと思いますが、親に何時までも居ていいんだよと言

われたときに、以前でしたら、2、3週間は平気で親のところ泊まっていたのですが、震災の時は何時自宅に戻れるという保証がなく、居候しなければならぬという気持ちがとてもみじめになり、帰れる場所がないということで、はじめて、施しを受けるという気持ちが理解できました。みんなが気を使ってくれるほど、気が重く、友達もいっぱい食べ物を持ってお見舞いに来てくれましたが、かえって、食べ物がないわけではないのにという気持ちが出たり、本当に今考えても、どうしてあんな精神状態になったかわからないのですが、親や友達の大切な好意を湾曲して受け取っておりました。そのときボランティアほど難しいものはないと思いました。

する方とされる方の違い、今までは受ける人の気持ちを全く理解しないで一方的にしていたとつくづく思い知らされました。まして私は親のところ世話になっても、そういう気持ちになったのですから他人に施されているということになったらどんなだろうとおもいました。それから、ボランティアさせていただくことに、意義があり、それによって、成長させていただくという気持ちがもてるように努力しなければならぬと思いました。そして今、大阪Ⅱゾンタクラブ、宝塚ベトナム友好協会、N.P.O.法人緑と花と輝きの街づくりなどのボランティア団体に参加して自分なりの自然体で素朴なボランティアを一から始めるつもりでありますので、よろしく願いもうしあげます。

予 告

大阪Ⅱゾンタクラブ10周年記念式典・祝宴・コンサート

日程が決まりました。

日時 2002年12月1日 (日)

場所 大阪市中央公会堂

大正7年から大阪の歴史を刻み続けた歴史的建物がこの度リニューアルされ、中之島の水と緑に映える赤煉瓦の景観美が大阪の新たなシンボルとして再び蘇ります。

第1部 記念式典 (10.00~11.00)

第2部 祝宴 (11.00~12.00)

第3部 記念チャリティコンサート (15.00~17.00)

テノール歌手 荒垣 勉さんによるお話とコンサート



編集後記

7月の例会に間に合わせようと急ぎましたが皆さまの御協力できっとできあがりました。10周年頑張りましょう。ありがとうございました。よい夏休みを！！

広報委員長 宮本典子